

# 国立特別支援教育総合研究所

## 研究企画部

### 事業説明

## 研究企画部の主な業務

### ○特総研（NISE）の研究に係る総合的な企画立案 及び調整に関すること

- ・実施中の研究の推進に関わる支援
- ・次年度以降の研究に関わる文部科学省特別支援教育課との調整及び立案 等

### ○関係機関との連携に関すること

- ・近隣の自治体の教育委員会との連携の推進
- ・大学、企業との連携の推進 等

### ○研究活動の評価に関すること

- ・内部評価及び外部評価の実施
- ・ニーズ調査、活用度調査の実施と、意見の受理

# 第5期中期目標期間（令和3年度～7年度） における研究の方向性

## 基本方針

インクルーシブ教育システムの構築に向けて、障害のある子供一人一人の教育的ニーズに対応した教育の実現に貢献することをミッションとする。

インクルーシブ教育システムの構築、障害のある子供一人一人の教育的ニーズに対応した教育の実現に寄与するため、国、地方公共団体、大学、研究機関、学校等関係機関との連携を強化するとともに、研究所の役割をさらに明確にし、国の政策課題や教育現場の喫緊の課題等に対応した研究活動を実施する。

## 第5期中期目標期間における研究体系

研究区分	研究の性格(研究期間)
重点課題研究	障害種の枠を超えて、国の特別支援教育政策の推進、又は教育現場等の喫緊の課題解決に寄与する研究(2～3年間)
障害種別特定研究	各障害種における喫緊の課題の解決に寄与する研究(原則2年間)。
その他	<p><b>基礎的研究活動</b>: <b>テーマ別研究班及び障害種別研究班</b>における基盤的な研究。年次基礎調査や、指導の充実等に寄与する調査・分析、それらの結果の普及等の基礎的・継続的な研究活動。</p> <p><b>先端的・先導的研究</b>: 将来的な教育政策の検討資料や教育実践の選択肢を提示することを目標に行う研究(1～3年間)。</p> <p><b>国の要請等に応じた研究</b>: 国の政策立案等に貢献することを目的とした研究。</p> <p><b>共同研究</b>: 本研究所が大学や民間などの研究機関等と共同で行う研究。</p> <p><b>外部資金研究</b>: 科学研究費助成金等の外部資金を獲得して行う研究。</p> <p><b>受託研究</b>: 外部からの委託を受けて行う研究。</p>

- 「先端的・先導的研究」として令和5年度から2年計画で「知的障害のある児童生徒に対する系統的なプログラミング教育推進のための先導的研究」を実施中。

## 重点課題研究及び障害種別特定研究

### 重点課題研究

<令和6年度に実施している研究>

※キャリアに関する研究は令和6年度開始、その他は令和5年度から継続

(1) 教育課程に関する研究(国への政策貢献)

- ・ 特別支援教育に係る教育課程の基準等に関する研究 (教育課程チーム)

(2) 切れ目ない支援の充実に関する研究(教育現場等の喫緊の課題に対応)

- ・ 多様な教育的ニーズのある子供の学びの場の充実に関する研究(学びの場チーム)
- ・ 共生社会の担い手を育む教育に関する研究—障害理解教育の検討を中心に—(共生社会チーム)
- ・ 障害のある生徒のキャリア教育の充実に関する研究(キャリアチーム)

<令和5年度に終了した研究>

- ・ 高等学校における障害のある生徒の社会への円滑な移行に向けた進路指導と連携の進め方等に関する研究

### 障害種別特定研究

<令和6年度に実施している研究>

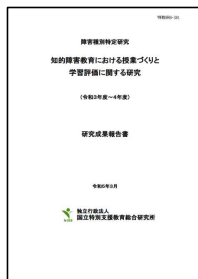
※令和5年度開始

- ・ 肢体不自由教育におけるICTの活用に関する研究(肢体不自由ICTチーム)

## 重点課題研究・障害種別特定研究の成果

<成果物>

- ・ 研究成果報告書
- ・ 研究成果報告書サマリー集
- ・ ガイドブック
- ・ リーフレット 等



研究成果・刊行物

研究成果・刊行物 (標準版)			
研究発表	特設型パネル	紙版・Web版	
研究成果報告書	調査報告書	ガイドブック・巻頭言	
研究成果報告書サマリー集	研究の進展	リーフレット	研究開発報告書
特別支援教育研究論文	研究発表要約リスト	重点推進研究プロジェクト研究報告書	共同研究報告書
特別支援教育ニュース			

研究成果・刊行物 (標準版)			
研究発表報告書	研究発表報告書	研究発表報告書	研究不自由教育
紙版・巻頭言報告書	共同研究報告書	共同研究報告書	重点推進報告書
研究発表要約リスト・Web版・巻頭言報告書	資料・巻頭言		

<成果物の活用例>

- ・ 研修会やセミナーでの活用
- ・ 学校・教職員への提供
- ・ 研究や施策推進にあたっての参考資料

## 重点課題研究等への特別研究員の参画

- 特別研究員(地域連携型)を本研究所に派遣し、共に研究を行う都道府県・指定都市を公募。
- 特別研究員(地域連携型)は、教育委員会、教育センターで特別支援教育に関わる職員や、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等の教員。
- 申請のあった教職員を、特別研究員(地域連携型)として受け入れ、申請内容を基に参画する研究課題を決定。派遣元の教育委員会を研究協力機関に指定。
- 特別研究員(地域連携型)は、指定の研究チームに所属し、本研究所の職員と共に研究活動を行う。地域の情報を研究チームに提供するとともに、成果を地域に還元する。
- 令和6年度の特別研究員(5県より6名が参画)
 

青森県(キャリアチーム)	埼玉県(教育課程チーム)
長野県(学びの場チーム)	静岡県(教育課程チーム、学びの場チーム)
和歌山県(教育課程チーム)	

7

## 基礎的研究活動

### テーマ別研究

社会的背景等から必要なテーマ別研究班を設置。関係団体との連携を図りながら基礎的研究活動を行い、その成果を重点課題研究や国の政策立案等に生かす。

- ①ICT班 : 特別支援教育におけるICT、教材・教具の活用に関する研究班
- ②キャリア班 : 障害のある児童生徒のキャリア教育及び就労支援に関する研究班
- ③幼児班 : 乳幼児期の特別支援教育に関する研究班
- ④外国人等班 : 外国につながるのある子供の特別支援教育に関する研究班

### 障害種別研究

障害種別の研究班においては「障害種別特定研究」のほか、「基礎的研究活動」(各教育分野の指導の充実等に寄与する資料の収集や調査・分析、各教育分野の実態等を定期的に把握・分析することを目的とした年次基礎調査、それらの結果の普及等、当該障害種に係る基礎的・継続的な研究活動)を行う。

- ①視覚班、②聴覚班、③知的班、④肢体不自由班、⑤病弱班、⑥言語班、⑦自閉症班、⑧発達・情緒班、⑨重複班

8

# 研究成果の還元

研究成果は、事例集やリーフレット等としてウェブサイトに掲載しており、ダウンロードして活用できます。また、メールマガジンでの発信や研修事業、研究所セミナーでも普及を図っています。



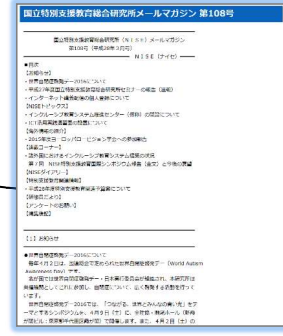
研究成果報告書



事例集



リーフレット



メールマガジン



刊行物(市販)



研修事業(集合型実施時の様子)



研究所セミナー(集合型開催時の様子)

研究成果についてはこちらから御覧いただけます  
[https://www.nise.go.jp/nc/report\\_material/guide02](https://www.nise.go.jp/nc/report_material/guide02)

# 障害種別研究班等の最近のリーフレット・ガイドブック等



視覚障害教育



聴覚障害教育



肢体不自由教育



知的障害教育



病弱・身体虚弱教育



自閉症教育



発達障害・情緒障害教育



言語障害教育



重複障害教育



インクルーシブ教育システム



教育課程に関する研究

研究成果についてはこちらから御覧いただけます  
[https://www.nise.go.jp/nc/report\\_material/research\\_results\\_publications/result\\_list](https://www.nise.go.jp/nc/report_material/research_results_publications/result_list)



# 研修事業部事業説明



## 研修事業

### (1) 国の政策課題や教育現場のニーズ等に対応できる指導者の専門性の向上

- ・各都道府県等における障害種ごとの教育の中核となる教職員を対象とした専門的・技術的な研修及び各都道府県等における指導的立場にある教職員を対象とした特別支援教育政策上や教育現場等の喫緊の課題等に対応した専門的・技術的な研修を実施する。
- ・研修目的に留意しつつ、宿泊及びオンラインを適切に組み合わせ、講義のほか、研究所の研究の成果を踏まえた演習・研究協議、フィールドワーク等の形式を多く取り入れるなど工夫し、学術的な理論に裏打ちされた実践的かつ効果的な研修を実施すること。

### (2) 各都道府県等が実施する教員の資質向上に関わる支援

- ・多様な学びの場に対応した講義配信コンテンツの計画的な整備を図り、インターネットにより学校教育関係者等へ配信すること。
- ・特別支援学校教諭免許状取得率向上のために免許法認定通信教育及び免許法認定講習を実施するとともに、大学等が開設する講習への協力、受講者が受講しやすくなる環境・方策及び科目・単位の拡充の可能性について検討すること。
- ・大学等と連携して、教員養成段階の学生等を対象とした特別支援教育に関する専門的な講習を実施すること。

## 研修事業の計画について

- 各都道府県等の障害種ごとの教育の中核となる教職員の専門性と指導力の向上を図るための専門研修及び特別支援教育政策上や教育現場等の喫緊の課題に対応する短期間の研修・セミナーを実施する。
- 文部科学省や関係機関と連携し、研究所の研修に求められるニーズや、ICT環境の整備など学校教育を巡る状況の変化、社会情勢の変化等を的確に反映させる。
- インターネットによる講義配信「NISE学びラボ」について、幅広く広報するとともに、講義配信の活用例や研修モデルを提案し、教育委員会や学校が実施する研修における活用を推進する。
- 特別支援学校教諭免許状の取得率向上のため、インターネットを通して免許法認定通信教育等を実施する。

### 特別支援教育専門研修（障害種別にコース・プログラムを設けた約2ヶ月間の研修）

- <令和6年度> \*オンラインと4週間の来所宿泊
- ・発達障害・情緒障害・言語障害教育（令和6年5月13日～令和6年7月12日）
  - ・知的障害教育コース（令和6年9月10日～令和6年11月15日）
  - ・視覚障害・聴覚障害・肢体不自由・病弱教育（令和7年1月8日～令和7年3月14日）

### 研究と研修のコラボ（ラボ型研修）

第5期における特別支援教育専門研修においては、特別支援教育に関する知識・指導力の向上に加え、各都道府県における教育課題の解決に向け、研究・分析能力を有する指導者の養成を目指し、ラボ型の研修プログラムとなるよう取組を開始する。

#### <活動例>

- 研究所の機器・設備等を活用した研究協議の実施
- 調査データの分析に基づく課題解決策の検討

### 指導者研究協議会・セミナー（喫緊の課題等に対応した短期間の研修）

- <令和6年度>
- ・特別支援教育におけるICT活用に関わる指導者研究協議会（令和6年7月25日～26日）集合・宿泊
  - ・高等学校における通級による指導に関わる指導者研究協議会（令和6年8月29日～8月30日）集合・宿泊
  - ・交流及び共同学習推進指導者研究協議会（令和6年11月27日）オンライン
  - ・特別支援学校寄宿舎指導実践協議会（令和6年8月23日）オンライン・集合
  - ・発達障害教育実践セミナー（令和7年1月30日）オンライン

### インターネットによる講義配信「NISE学びラボ」

・各都道府県等におけるインクルーシブ教育システムの構築に向けた幅広い教員の資質向上のため、多様な学びの場に対応した講義配信コンテンツの計画的な整備を図り、活用の推進を図る。

### 免許状取得支援

- ・インターネットによる免許法認定通信教育を実施する。
- <令和6年度前期開設科目>
- ・視覚障害児の心理・生理・病理（1単位）
  - ・聴覚障害児の心理・生理・病理（1単位）
- <令和6年度後期開設科目>
- ・障害児の教育課程及び指導法 1単位
  - ・障害児の教育課程及び指導法 1単位
- ・特別支援教育専門研修において、免許法認定講習を実施する。

### 学生を対象とした講習

- ・大学等と連携して、教員養成段階の学生等を対象とした特別支援教育に関する専門的な講習を実施する。



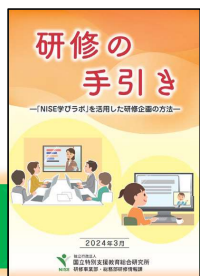
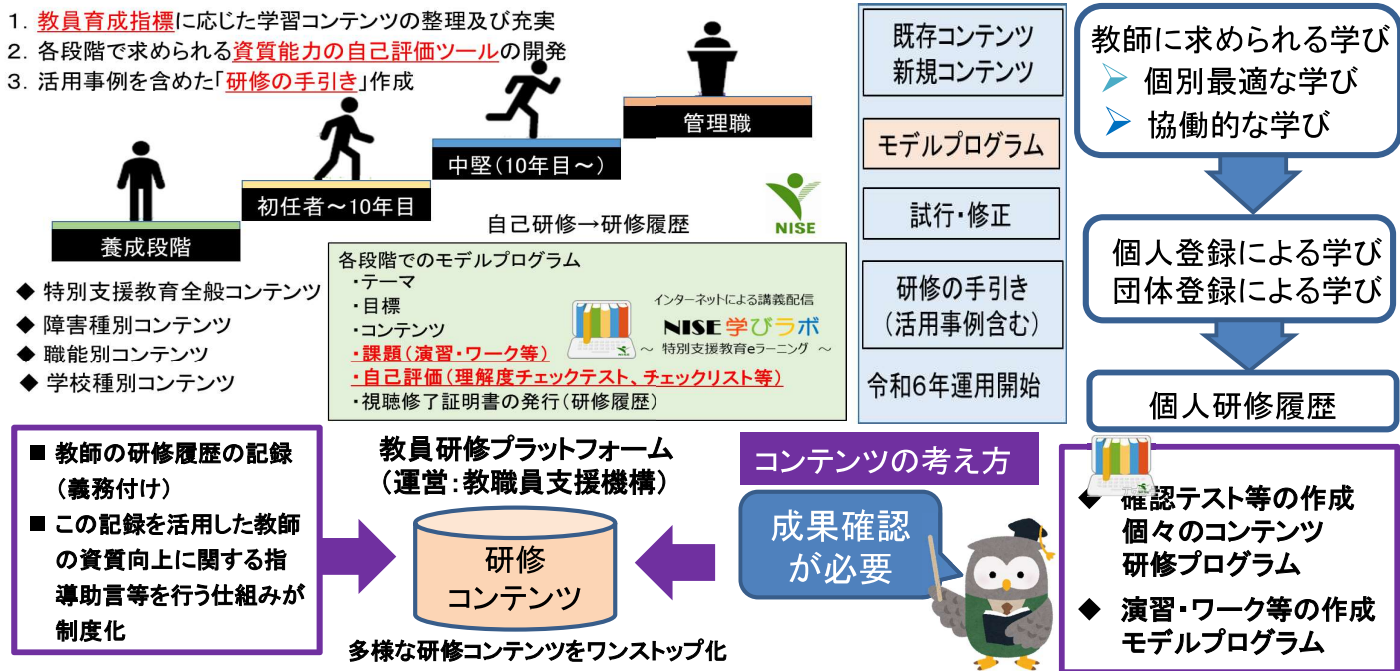
# NISE 研修体系

		目的	対象	形態	名称・内容	
教員のキャリアステージ	第3ステージ 広い視野で組織的な運営	指導者の養成	第2ステージ及び第3ステージの教職員	来所若しくはオンライン、又は来所とオンラインを組み合わせる研修	特別支援教育専門研修	障害種別のコース・プログラムで実施 (視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、病弱、知的障害、発達障害、情緒障害、言語障害)
	第2ステージ 専門性を高めスクールリーダーとして推進力を発揮				インクルーシブ教育システムの充実に関する指導者研究協議会・セミナー	特別支援教育施策上や教育現場等の喫緊の課題について実施 ・特別支援教育におけるICT活用に関わる指導者研究協議会 ・高等学校における通級による指導に関わる指導者研究協議会 ・交流及び共同学習推進指導者研究協議会 ・発達障害教育実践セミナー
					連携研修	・特別支援学校寄宿舎指導実践協議会 (全国特別支援学校長会と連携)
					その他の研修	・難聴児の切れ目ない支援体制構築研究協議会
第1ステージ 実践力を磨き教職の基礎固め	資質向上のための支援	第1ステージから第3ステージの教職員	インターネットを活用した研修	講義配信	特別支援教育に関する基礎知識、各障害種の概論、指導方法等に関する講義を配信 ・個人研修支援(スタディー・ログの充実) ・研修プログラムの提供 ・団体登録による自治体や学校の研修を支援(プログラムの作成、視聴証明書の発行等) ・小・中学校等の教員支援の強化	
教員養成大学	第1ステージ 必要最低限の基礎的	準備段階				

➤ スクールリーダー：中核的中堅教員として、将来管理職となる者も含め、学校単位や地域単位の教員組織・集団の中で、中核的・指導的な役割を果たすことが期待される教員

## 教師の学びを支援する「NISE学びのアシスト」

1. 教員育成指標に応じた学習コンテンツの整理及び充実
2. 各段階で求められる資質能力の自己評価ツールの開発
3. 活用事例を含めた「研修の手引き」作成



令和5年4月に各都道府県・指定都市教育委員会及び教育センターに「研修の手引き(試案)」お送りしました。いただいたご意見等をもとに令和6年3月末にバージョンアップした「**研修の手引き(正式版)**」を発行しました！

**NISEの研修、ぜひ、ご活用ください！**



# 情報・支援部 事業説明

2024/6/28

情報・支援部 総括研究員 小澤 至賢

## 目次



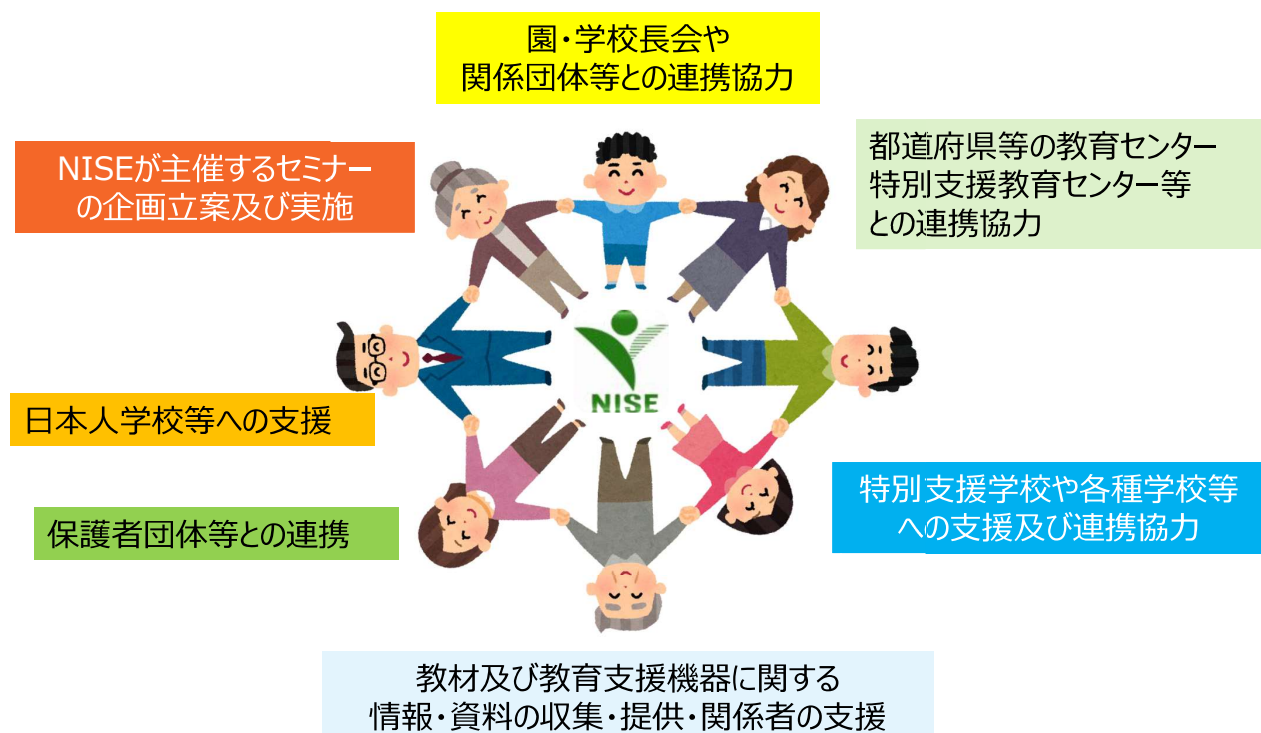
**I** 情報・支援部の業務の全体像

**II** 学校教育支援・連携

**III** 情報戦略

**IV** イベント紹介

## 特別支援教育に関する情報の収集・蓄積・提供や理解啓発活動



3

学校教育支援・連携

### 中期目標（情報・支援部関連部分）



#### 関係団体等との連携による学校支援について

校長会、教育委員会、教育センター等関係団体と連携した学校への情報提供を充実し、効率的・効果的な特別支援教育に関する情報の普及を図ること。

また、要請に応じ講師派遣を行うなど、各都道府県等における特別支援教育の施策推進を支援すること。



4

校長会等との関係強化を図り、関係団体が主催する各種会議等を活用して、効率的・効果的に特別支援教育に関する情報を普及する。



	関係機関	内容
4月	全国特別支援学校長会第一回事務局会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「国立特別支援教育総合研究所からのお知らせ」等の周知</li> <li>・特別支援学校寄宿舎指導実践協議会開催のお知らせ等周知</li> </ul>
	全国連合小学校長会、全日本中学校校長事務局、全国高等学校協会、全国定時制通信制高等学校長会等の事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要な特別支援教育に係る情報を提供</li> <li>・「国立特別支援教育総合研究所からのお知らせ」等の配布</li> </ul>
5月	全国特別支援学校長会第二回事務局会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第一期特別支援教育専門研修の開催について説明</li> </ul>
	全国特別支援学校長会第一回理事・評議員合同会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特総研の概要についての説明</li> </ul>
	全国特別支援教育推進連盟第一回理事会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各関係機関からの情報提供を所内で共有</li> </ul>
6月	全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国副会長研修会に参加</li> </ul>
	全国特別支援学校長会第三回事務局会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学校寄宿舎指導実践協議会の参加状況等の把握</li> <li>・本研究所要覧や各事業のチラシ等のお知らせ配布</li> </ul>
	第57回全国特別支援学校長研究大会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大会開催要項に特総研の事業説明等を誌面報告</li> </ul>

# 日本人学校等支援について

## 中期目標

日本人学校に対して、**関係機関と連携**を図りながら、**保護者も含めた関係者への情報発信**を行うとともに、**教育相談支援等**を必要に応じて行うこと。  
 【指標】毎年度、日本人学校に赴任する派遣教員には研修会を通して、海外駐在予定の保護者等には相談会を通して情報提供を行うとともに、日本人学校に対し、特別支援教育に関する情報提供を定期的（年15回程度）に実施する。

## 中期計画

日本人学校に対して、特別支援教育に関する情報提供を定期的（年15回程度）に実施し、関係者への情報発信を行うとともに、日本人学校を通して教員や保護者からの相談に対応し、支援する。また、文部科学省と連携し、日本人学校への遠隔指導に関する取組を行うとともに、日本人学校等在外教育施設に赴任する教員（管理職等）の研修会や保護者等への相談会において、情報提供を行う。



### 関係機関との連携

- **文部科学省国際教育課**
  - ・日本人学校対象「教育課程等実施状況調査」への協力（特総研だよりへの掲載）
  - ・在外教育アドバイザーへ連携協力
  - ・在外教育施設に赴任する教員（管理職等）の研修会へ協力
- **海外子女教育振興財団**
  - ・AG+への協力（日本人学校への遠隔指導に関する取組：遠隔支援コンサルテーション、合同研修会、日本人学校特別支援教育コーディネーター勉強会等）
  - ・帰国子女のための学校説明会・相談会へ協力（保護者への相談会）
  - ・在外教育施設が採用する教員等の研修会へ協力（\* 研究所各種コンテンツ紹介：「特別支援教育サポート通信」、「特別支援教育リーフ」、「特総研だより」については、海外子女教育振興財団の日本人学校メーリングリストを利用し送信。）
- **海外子女教育専門相談員連絡協議会**
  - ・年5回程度実施（7月5日（金）は特総研で実施）



### 1 情報発信

- 特別支援教育に関する情報提供（「特別支援教育サポート通信」、「特別支援教育リーフ」、「特総研だより」）
- 在外教育施設に赴任する教員（管理職等）の研修会、在外教育施設が採用する教員等の研修会
- 保護者等への相談会

### 2 教育相談支援等

- メールでの相談支援
- 在外教育アドバイザーへ連携協力
- 日本人学校への遠隔指導に関する取組（AG+）
- 保護者等への相談会

## 中期目標（情報・支援部関連部分）

### （1）特別支援教育に関する情報発信

#### ①戦略的な広報の推進

我が国唯一の特別支援教育のナショナルセンターとして、特別支援教育の政策・施策及び現状や課題、研究所の存在や活動内容（研究内容やその成果）等について、学校、民間企業、各種団体等、多方面に周知させ、それら各方面からの理解・支援を得ることができるよう取り組むこと。また、情報収集・発信方策や広報の在り方を明示した広報戦略を基本としつつ、特別支援教育に関する政策・施策や研究活動及び教育現場の課題等に関する情報を総合的に収集すること。研究所の活動内容等と併せて、全ての学校をはじめとする関係者に必要かつ有益な情報が提供されるよう、研究成果の普及やインターネットをはじめ広報効果の高いICTツールを活用した情報提供の量的充実を図るとともに、国と連携しながら、サマリー集やガイドブック、リーフレット等わかりやすい形で情報提供を行い、現場での活用を促進すること。

**【指標】**研究所のホームページについて、情報提供のコンテンツを充実し、広く学校、民間企業、各種団体等に周知するとともに、有用度に関する関係団体への聞き取りをもとに定期的に改善を行い、毎年度、年間75万以上の訪問者数を確保する。

独立行政法人  
国立特別支援教育総合研究所  
National Institute of Special Needs Education

Google 提供

印刷 携帯サイト English

本文へ 文字サイズ 大 中 小 表示色 標準 1 2 お問い合わせ

ホーム	特総研とは	研究	研修・セミナー	報告書・資料	各障害における 関連情報	English
ここから始めよう、 特別支援教育	発達障害のある子供の 指導・支援のヒント		研究者情報	特別支援教育 専門研修		サイトマップ

### 特別支援教育リーフ シリーズ

①まずはここから  
②こんな子いませんか？  
③こんな取組、  
していませんか？

まずはここから  
こんな取組、  
していませんか？  
こんな子いませんか？

「特別支援教育リーフ」刊行

国立特別支援教育総合研究所では、小・中学校等で初めて特別支援学級や通級による指導を担当する先生、特別支援教育について学ぶ機会がなかなか得られなかった先生に向けて、障害のある児童生徒がそれぞれの学びの場でより良く学び充実した学校生活を送れるようになるためには、どのように取組んでいくと良いか考えていくためのきっかけとなる内容をまとめ、取組のヒントとなる情報を記載した「特別支援教育リーフ」を作成しました。

詳しくはこちら ▶

特別支援教育リーフシリーズ

①まずはここから  
②こんな子いませんか？  
③こんな取組、  
していませんか？

自覚的・主体的に学ぶ場を創る  
特別支援教育に関する170の実践事例コンテンツ  
インターネットによる講義動画  
NISE 学びラボ  
～ 特別支援教育フォーラム ～

知的障害特別支援学級担任のための  
授業づくりサポートキット (小学校編)

すけっと

独立行政法人  
国立特別支援教育総合研究所  
インクルーシブ  
教育システム推進センター

インクルーシブ教育システム推進データベース  
「合理的配慮」実践事例データベース

再生 停止

トップページからニーズの高いページに、ワンクリックでアクセス

9

## （1）特別支援教育に関する情報発信

### ②教育関係者はじめ国民への幅広い理解啓発・理解促進の活動の推進

インクルーシブ教育システムの構築に向けて、研究所セミナー等の開催を通じて、教育委員会・学校・教員・国民への幅広い理解啓発活動を充実すること。特に特別支援教育の指導の経験のない又は経験年数の少ない教員に対し特別支援教育の理解啓発・理解促進を行うこと。

さらに、特別支援教育における支援機器等教材に関する情報を収集し、特別支援教育教材ポータルサイトの充実等により、幼稚園、小・中・高等学校及び特別支援学校の全ての学校において、ICT機器等の教材を広く普及させるための取組を実施すること。



主な内容（予定）

- 辻村賞授賞式及び記念講演
- 文部科学省行政説明
- 基調講演
- シンポジウム
- 研究テーマ別分科会
- 研究班活動ポスター発表 等



全国6ブロック

- 北海道・東北
- 関東甲信越
- 東海・北陸
- 近畿
- 中国・四国
- 九州



目的

地域における特別支援教育の理解啓発を図るため、教育委員会、特別支援教育センター（教育センターに特別支援教育を担当する部署がある場合を含む）（以下、特別支援教育センター等という）、関係団体等及び大学と連携を図りながら、各種セミナーや研修会、支援機器等教材に関する展示会等を戦略的、計画的に実施する。全国を6ブロックに分け、中期計画期間中に各ブロックの実情に応じた開催を計画し毎年度3回（中期計画期間中に15回）程度開催する。

令和6年度 年間3回実施

- ◆ 関東甲信越ブロック 担当：インクルーシブ教育システム推進センター
- ◆ 東海・北陸ブロック 担当：発達障害教育推進センター
- ◆ 近畿ブロック 担当：情報・支援部

2024  
リニューアル

# 支援教材ポータル

特別支援教育教材ポータルサイト

https://kyozai.nise.go.jp/

## リニューアル（見直し）内容

### ● 検索の利便性の向上（改善）

- ◇ スマートフォンやタブレットでも検索しやすい画面を新たに構成
  - 画面をスクロールせずに検索できるように検索画面の配置を改善
- ◇ 利用者にとってより効率的な検索
  - キーワード検索、詳細検索とも1回の操作で検索結果を表示

### ● 得られる情報の質の向上（改善）

- ◇ デジタル教材が中心になるように再構成
  - 特別支援教育におけるICT活用の高まりによるニーズに対応
- ◇ 「Pick Up」・「おすすめ」の設定（新設）
  - トップページに「Pick Up」のエリアを設置し、新着情報やテーマに沿った教材・支援機器の紹介などを重点的に広げ
- ◇ 都道府県教育委員会、教育センター等の協力による実践事例の充実

## 今後のポータルサイトのさらなる充実

### ● 得られる情報の質の向上

- ◇ 動画コンテンツを導入（新規）※令和6年度実施予定
  - 実際の教材・支援機器を使用した動画コンテンツの掲載により、具体的な指導事例や活用方法を提供

## 国内のICTの実践集結



## 情報戦略

# 特別支援教育教材ポータルサイト



現在、文部科学省YouTubeチャンネルに3月に公開された「【特別支援教育編】1人1台端末の効果的な活用～個別最適な学びを支える～」の紹介をしています。

## 支援教材ポータル

特別支援教育教材ポータルサイト



**ICT活用実践演習室**  
[あしたの教室]の活用

通常の学級で、障害や困難さがある児童生徒が共に学ぶために、ICT機器を使ってどのような支援ができるかを、授業スタイルで考えるための研修や演習を行う教室です。



ICT機器を活用した通常の学級の授業を体験



あしたの教室内を仕切り、病院を想定し、遠隔で授業に参加している状況を体験

**教育支援機器等展示室**  
[ライブラリー]

障害のある子供一人一人の教育的ニーズに応じた支援を実現する様々な教育支援機器やソフトウェアを展示した部屋です。

主に、学校で利用可能な市販品を障害種ごとにコーナーを設け、説明パネル等を使って紹介しています。



障害や困難さがある児童生徒へICT機器を使ってどのような支援や指導ができるかを実践的に学ぶための環境や設備を整えています。

<利用者数>  
累計707人(令和6年2月8日現在)

「あしたの教室」の特色

障害や困難さに応じたICT活用

様々な障害や困難さに対応する支援機器や設備を、実際に手にとって体験・活用することができます。



タブレットをトラックボールで操作



視線入力装置



タブレット型端末を傾くために机を広げるツール

GIGAスクール構想に応じたICT活用

GIGAスクール構想で導入された各種タブレット型端末や周辺機器をそろえているので各自治体・学校的环境に即した研修ができます。



Chromebook



Surface



iPad

学習場面に応じたICT活用

一斉学習や協働学習における支援や指導を想定した研修など、内容に合わせてレイアウトを変更してICT活用を実践的に学ぶことができます。



# 特別支援教育リーフ

小・中学校等で初めて特別支援学級や通級による指導を担当する先生、特別支援教育について学ぶ機会がなかなか得られなかった先生に向けて、障害のある児童生徒がそれぞれの学びの場でより良く学び充実した学校生活を送れるようになるためには、どのように取組んでいくと良いか考えていくためのきっかけとなる内容をまとめ、取組のヒントとなる情報を記載しています。



- Vol.1 ここからはじめてみよう、特別支援学級
- Vol.2 障害のある子供も共に楽しむ体育の授業
- Vol.3 学習や生活を豊かにするICT
- Vol.4 多様性の理解につながる「障害理解」
- Vol.5 このように考えよう、合理的配慮
- Vol.6 活用してみよう、「センター的機能」
- Vol.7 みんなの思いをことばにしよう！つなげよう！  
～個別の教育支援計画と個別の指導計画の作成と活用～
- Vol.8 聞こえにくさのある子供の理解と支援
- Vol.9 感情をコントロールすることが苦手な子供の理解と支援
- Vol.10 人前で話すことが苦手な子供の理解と支援
- Vol.11 「交流及び共同学習」の授業づくり
- Vol.12 急な予定の変更に対応することが苦手な子供の理解と支援
- Vol.13 障害のある子供へのキャリア教育
- Vol.14 キャリア・パスポートを作成・活用
- Vol.15 見えにくさのある子供の理解と支援
- Vol.16 子どもの話す「ことば」が気になる先生へ

## イベント紹介

### 研究所公開

日 程 令和6年11月9日（土）  
開催場所 国立特別支援教育総合研究所  
（神奈川県横須賀市）



研究所を身近に感じていただける体験型のイベントです。

### 国立特別支援教育総合 研究所セミナー

日 程 令和7年3月8日（土）  
開催場所 国立オリンピック記念  
青少年総合センター



研究所の活動や研究成果を報告します。

### 特別支援教育推進 セミナー

- 【ICT活用(近畿ブロック、京都府)】  
日時：令和6年9月20日（金）  
テーマ：(仮)「学校現場における組織的なICT活用の実際」
- 【インクルーシブ教育システムの推進（関東甲信越ブロック）】  
日時：未定(令和6年11月予定)  
テーマ：(仮)「地域におけるインクルーシブ教育システムの推進」
- 【発達障害のある子どもの理解と支援（東海・北陸ブロック、福井県）】  
日時：未定(令和6年12月予定)  
テーマ：(仮)「保護者や関係機関との連携による発達障害のある子供の理解と支援」



独立行政法人

国立特別支援教育総合研究所

National Institute of Special Needs Education

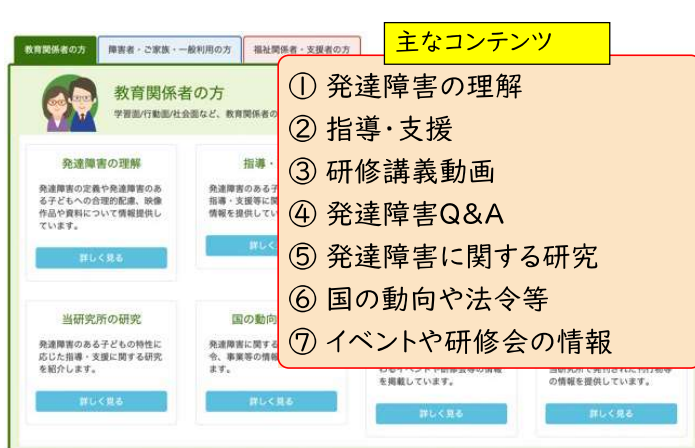


# R6年度 全特セ総会 発達障害教育推進センター 業務説明

2024/6/28 (金)

発達障害教育推進センター

## 【①情報発信】Webサイトによる情報提供



本センターのWebサイトへのアクセスは  
**NISE 発達障害**  
の検索ワードを入力して、クリック！

通常<sup>①</sup>の学級における発達障害教育の情報提供について会議で検討してきました。今年度新たな情報を発信の予定です！

研修講義の一部はYouTubeでも視聴可



## 【② (機関連携による)情報発信】 発達障害ナビポータル



- 国が提供する発達障害に特化したポータルサイトです。
- 発達障害に関する信頼のおける情報を提供します。
- 厚生労働省、国立障害者リハビリテーションセンター、文部科学省、国立特別支援教育総合研究所の共同運営です。

Webサイトへのアクセスは  
**発達障害 ナビポータル**  
の検索ワードを入力して、クリック！



National Rehabilitation Center for Persons with Disabilities  
国立障害者リハビリテーションセンター



文部科学省



独立行政法人  
国立特別支援教育総合研究所

## 【③ 情報発信】 発達障害教育推進センター展示室



発達障害に関する理解の促進、適切な対応や支援の充実を目的として、ライフステージに応じた教材・教具や支援ツールの展示、パネル展示や参考図書・映画の紹介、体験的な理解ができるコーナーなどを常設しています。



展示室にある教材・教具は、当センターWebサイトの「教材・教具」で紹介しています。



## 【④ 人材育成】 発達障害教育実践セミナーの開催



本セミナーは、教師の人材育成を担う都道府県・指定都市の教育委員会及び教育センターの研修担当の指導主事等を対象とし、通常の学級における発達障害教育の充実に向けた人材育成に関する取組の推進に寄与することを目的に開催。

当日プログラムのパネルディスカッション及び取組紹介は、YouTubeライブ配信により、市町村教育委員会の研修担当の指導主事等が視聴。

### 【令和5年度のセミナー】

テーマ「通常の学級における発達障害教育の充実に向けた展望と人材育成」

内容：事前プログラム（オンデマンド講義）、パネルディスカッション、取組紹介、情報交換会

対象：教育委員会・センター等の研修担当等



今年度は**1月30日(木)**に開催します。  
※さらに参加者を限定しない講演会形式のセミナーを、9月に開催予定です。

5

## 【⑤ 人材育成】 当センターのその他の取り組み



### 研究所公開

展示室を公開をして、発達障害の理解啓発をしました。学校教育や福祉の現場で指導・支援をする方が、毎年たくさん来所していただいています。昨年度はセンター長が、ミニ講座で「発達障害って知っていますか？」の講義をしました。今年度は**11月9日(土)**に開催します。

### 特別支援 教育推進 セミナー

特総研として開催するセミナー(オンライン)です。全国を6ブロックに分け、毎年3つのブロックで開催しています。当センターは、発達障害者支援センターのご協力をいただき、教育と福祉の連携をテーマにセミナーを開催しています。今年度は**12月**に福井県会場を繋いで配信します。

### 特総研 セミナー

特総研全体の研究成果を発表するセミナーです。今年度は、**3月8日(土)**に、国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区)を会場に開催します。(多様なニーズのある発達障害児の学びの場について等、当研究所が取り組んでいる研究成果を発表します。)

6

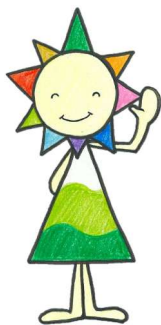
# インクルーシブ教育システムについて

2024/05/16

インクルーシブ教育システム推進センター



# インクルーシブ教育システム推進センターのご紹介



主として以下の3業務を展開しています

## ① 地域支援事業



教育委員会と連携・協働し、地域のインクルーシブ教育システム構築を推進

## ② 国際



インクルーシブ教育システム構築の国際的動向の把握と海外の研究機関との研究交流の推進

## ③ インクルD B

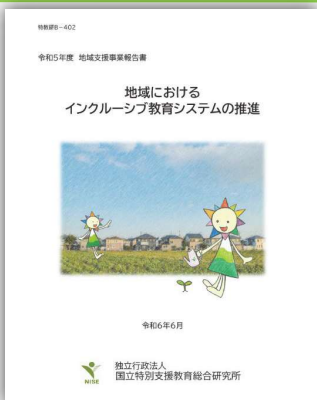


自治体や学校が直面する課題の解決に関する支援や情報発信

# 地域支援事業

教育委員会と研究所が連携して地域のインクルーシブ教育システム構築を推進する事業です

- 研究所との連携により、インクルーシブ教育システム構築に関する課題解決に向けた取組を推進します
- これまでの「地域実践研究」の研究成果を活用できます
- 他の参加地域と情報交換することができます
- 事業の成果を、研究所と協働して地域に普及することができます



令和5年度の地域支援事業報告書  
(16自治体の取組を掲載)



平成28年度～令和3年度地域実践研究の成果をリーフレットでまとめました  
インクルセンターのホームページをご覧ください

## 令和6年度 参加自治体 (15県市区町)

- |  |   |   |   |  |
|--|---|---|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・青森県</li> <li>・栃木県</li> <li>・山梨県</li> <li>・広島県</li> <li>・宮崎県</li> </ul> |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄県</li> <li>・名古屋市</li> <li>・赤平市 (北海道)</li> <li>・一戸町 (岩手県)</li> <li>・宮古市 (岩手県)</li> </ul> |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・豊島区 (東京都)</li> <li>・秦野市 (神奈川県)</li> <li>・鳥取市 (鳥取県)</li> <li>・阿久根市 (鹿児島県)</li> <li>・枕崎市 (鹿児島県)</li> </ul> |
|--|---|---|---|--|



## 令和6年度 実施計画

- ・4月26日 事業説明会 (リモート)
- ・8月23日 推進プログラム (研究所)
- ・9月～ 交流スペース (リモート)
- ・3月上旬 事業報告会 (リモート)  
各自治体での報告会等



## 国際的動向の把握と海外研究機関との交流

- 諸外国のインクルーシブ教育システムの最新動向を収集
  - アメリカ、イギリス、オーストラリア、ドイツ、フランス、スウェーデン、フィンランド、韓国 (8か国)  
大学教員等に特任研究員として協力を依頼
  - 文科省、特別支援教育担当者会議、審議会等へ情報提供、「特総研ジャーナル」等で普及
- 海外の研究機関等との国際交流
  - 韓国国立特殊教育院との「日韓特別支援教育協議会」  
令和5年度は5月に韓国で実施 (理事長等4名参加)  
令和6年度は7月にNISEで実施 (韓国から6名来日)
  - 韓国国立特殊教育院主催の国際セミナーに派遣
- 海外からの視察・研修の受け入れ
  - JICAの研修プログラム、マンسفールド研修等

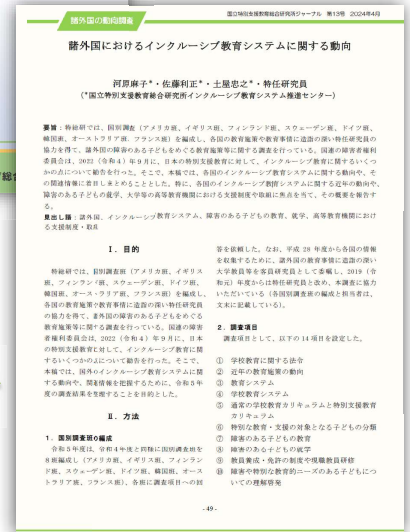
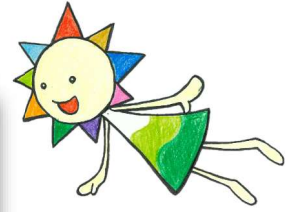
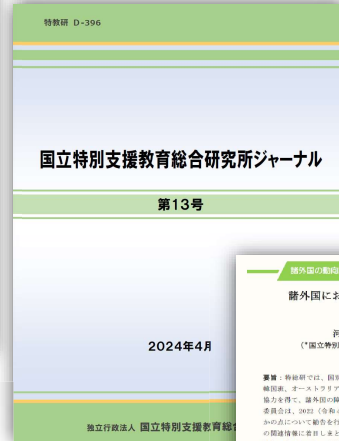




# 国際的動向の把握と海外研究機関との交流



↑ 韓国国立特殊教育院で実施された  
日韓特別支援教育協議会（令和5年5月）

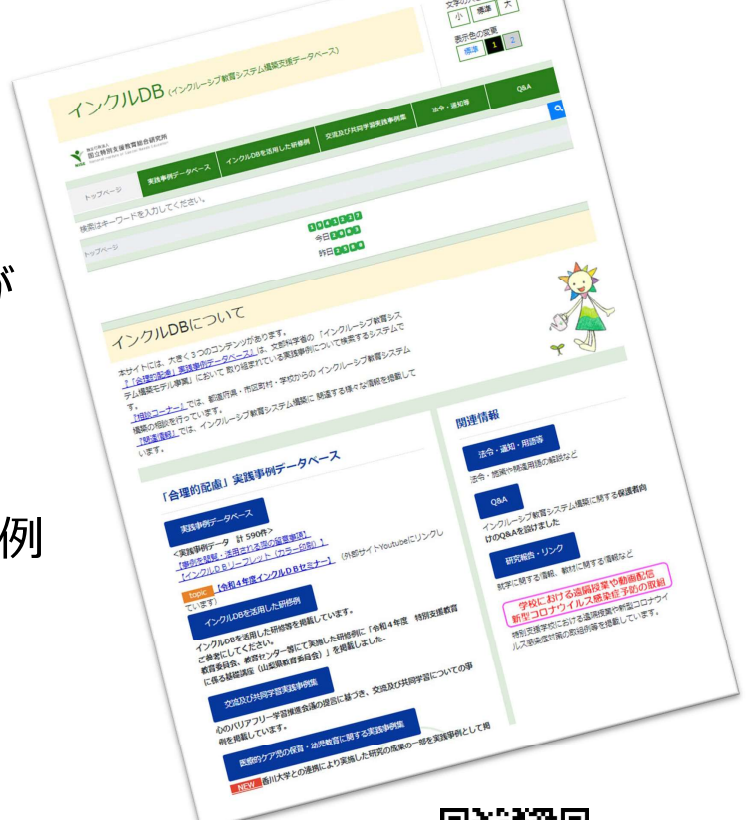


国立特別支援教育総合研究所ジャーナル(13号)に、  
令和5年度の国際的動向把握を整理した「諸外国における  
インクルーシブ教育システムに関する動向」を掲載



## インクルDB（インクルーシブ教育システム構築支援データベース）

- 文部科学省の「インクルーシブ教育システム構築モデル事業」等で得られた「合理的配慮」の実践事例をデータベース化
- 令和5年度 80,335件 事例がダウンロードされ活用された
- 直近では以下を追加
  - ・インクルDBを利用した研修例
  - ・医療的ケアの必要な乳幼児事例
- オンラインセミナーの実施



研究所の動画サイト  
(NISEチャンネル)  
でご覧いただけます。





# インクルDB

## インクルーシブ教育システム構築支援データベース

インクルDB (インクルーシブ教育システム構築支援データベース)

文字の大きさ     
 表示色の変更     
 ・アクセシビリティツールを起動  
 ・ツールの使い方

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所  
NISE National Institute of Special Needs Education

検索

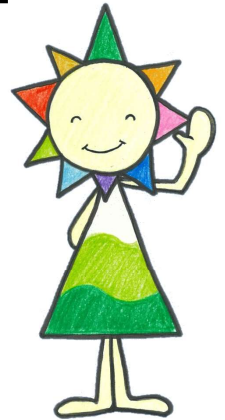
[トップページ](#)
[実践事例データベース](#)
[法令・通知等](#)
[Q&A](#)
[研究報告・リンク](#)
[教育相談情報](#)

トップページ > 実践事例データベース (新) > 実践事例データベースII

実践事例データベースII

事例タイトル	【6】特別支援学級に在籍するブラダー・ウィリー症候群の小学5年生の児童の学習意欲と自信を高めるための授業における配慮		
事例の概要	<p>A児は、B小学校の知的障害特別支援学級に在籍する、ブラダー・ウィリー症候群の小学5年生の児童である。軽度の知的な遅れの状態と軽微な症がみられる。学習面では、絵を描いたり、手紙を書いたりする活動を好む。しかし、活動の見直しを十分にもつことができないときや、急な変更があったときは、活動が停滞することがある。</p> <p>本事例は、A児の学習意欲と自信を高めるための授業における配慮に関するものである。具体的には、生活単元学習の授業を例に授業における配慮を考えた。</p> <p>本事例の成果は、A児が活動に見直しをもって参加し、最後まで主体的に活動を行うことができるようになるために、次のような視点から授業において配慮を行う必要があることが明確になったことである。①活動の順番がわかる手帳カードを提示すること、②実際の場に近い疑似体験の場の設定、③正しい手順で活動できたかを確認することができる評価方法を設定することである。このような配慮を行うことで、A児は、自分がどのように活動すると良いのかを考え、取り組むことができた。</p>		
在籍状況	小学校 (特別支援学級)	学年	小5
障害種	知的障害		
キーワード	手帳カード、疑似体験の場の設定、評価方法の設定、ブラダー・ウィリー症候群		
事例リンク	<a href="#">H27_0396PS5-1D.pdf</a>		
	<a href="#">  詳細を表示</a>		
事例タイトル	【5】特別支援学校 (肢体不自由) に在籍する中学3年生の生徒の宿泊学習への参加における合理的配慮		

インクルDBの  
QRコードです。  
ぜひ、ご利用ください。



ありがとうございました。



独立行政法人  
国立特別支援教育総合研究所  
National Institute of Special Needs Education

# インクルDB

「合理的配慮」実践事例データベース

なかなか伝わらない・・・。

落ち着きがない・・・。



合理的配慮  
とは？

研修の材料がほしい・・・。



困っているみたい・・・。

そんな時には、すぐ検索！

インクルDB



590事例  
(2024年3月現在)

## インクルDBについて

本サイトには、大きく3つのコンテンツがあります。

『[「合理的配慮」実践事例データベース](#)』は、文部科学省の「インクルーシブ教育システム構築モデル事業」において取り組まれている実践事例について検索するシステムです。

『[相談コーナー](#)』では、都道府県・市区町村・学校からのインクルーシブ教育システム構築の相談を行っています。

『[関連情報](#)』では、インクルーシブ教育システム構築に関連する様々な情報を掲載しています。



インクルDB  
を活用した  
研修例

研修会  
での活用方法  
も紹介してい  
ます

## 「合理的配慮」実践事例データベース

実践事例データベース

<実践事例データ 計 590件>

『[事例を閲覧・活用される際の留意事項](#)』

『[インクルDBリーフレット\(カラー印刷\)](#)』

topic 『[令和4年度インクルDBセミナー](#)』(外部サイトYoutubeにリンクしています)

インクルDBを活用した研修例

インクルDBを活用した研修等を掲載しています。  
ご参考にしてください。

## 関連情報

法令・通知・用語等

法令・施策や関連用語の解説など

Q&A

インクルーシブ教育システム構築に関する保護者向けのQ&Aを設けました

研究報告・リンク

就学に関する情報、教材に関する情報など



# 「合理的配慮」実践事例データベースの使い方



## 事例のダウンロード画面

H25 0054PS1-VIIDS1

平成25年度インクルーシブ教育システム構築モデル事業  
(モデル地域(交流及び共同学習)) 報告書  
成果報告書(II)

A児は、B小学校の知的障害特別支援学級に在籍するダウン症候群の1年生である。B小学校には、知的障害特別支援学級のほか、自閉症・情緒障害、肢体不自由の特別支援学級が設置されている。  
生徒指導主事を中心に児童の情報共有することで、全教職員の児童理解を深めている。また、特別支援校内委員会を定期的に開催し、特別な教育的ニーズのある児童への指導内容や方法について話し合ったり、専門相談員を招いたりして、効果的な支援の在り方について考える機会を設けている。A児が日頃、知的障害特別支援学級で行っている、日常生活の指導や個別指導の内容が、交流及び共同学習(生活、体育、音楽及び図画工作等の教科学習や行事への参加)で生かされるように、通常の学級と特別支援学級の各担任が情報交換を行い、合理的配慮を検討している。

ファイル名: H25 0054PS1-VIIDS1

### 1. 取組のキーワードについて

(1) 対象児童生徒等の障害種(下のいずれかに●を付すこと。重複障害の場合は、併せ有する障害に全てに●を付すこと。)

●視覚障害、●聴覚障害、●知的障害、●肢体不自由、●病弱・身体虚弱、●言語障害、●自閉症、●情緒障害、●学習障害、●注意欠陥多動性障害

中略

### (4) 【合理①-2-2】学習機会や体験の確保

交流及び共同学習の図画工作で、歯磨きする自分を描くという学習内容の際、絵の構図を示しながら、モデルとなる絵を黒板に描き、A児がそれをまねることで、作品を完成することができた。また、絵の具を使った模様作りで、担任が絵の具を塗る様子に実際にみせることで、自分が描きたい色を選び、模様の塗り方を決めることができた。

運動会のリズム練習では、A児の近くで交流学級の担任が演じ、A児は、その動きを上手にまねて踊った。

体育のマット運動や跳び箱では、小グループでの活動を多く取り入れ、何度も練習できるようにしている。縄跳びでは、他の児童から誘われたり、誘ったりしながら、一緒に跳ぶことができるようになった。

C市内の特別支援学級の合同合宿では、A児にとって余裕のある活動日程としたことで、初めての体験にもかかわらず、往復3km以上の道のりをグループのメンバーと歩くことができた。また、カレー作りでは、事前に生活単元学習で練習していたので、皮むき器や包丁を上手に使うことができた。入浴や洗面等も自分で率先して行おうとした。



写真2 絵の具の塗り方の実践

検索はキーワードを入力してください。

【I】 対象児童生徒等の障害種

and  or

視覚障害 [19]

聴覚障害 [42]

知的障害 [142]

肢体不自由 [56]

病弱・身体虚弱 [26]

言語障害 [31]

自閉症 [173]

情緒障害 [45]

学習障害 [92]

注意欠陥多動性障害 [97]

全て選択/全て解除

【II】 対象児童生徒等の障害の程度(学校教育法施行令第22条の3)

該当 [159]

非該当 [75]

【III】 対象児童生徒等の在籍状況等

幼稚園 [23]

小学校(通常の学級) [63]

小学校(通常の学級・通級による指導) [78]

小学校(特別支援学級) [119]

中学校(通常の学級) [57]

中学校(通常の学級・通級による指導) [41]

中学校(特別支援学級) [28]

高等学校 [42]

中等教育学校 [0]

特別支援学校(幼稚園) [1]

特別支援学校(小学部) [35]

特別支援学校(中学部) [15]

特別支援学校(高等部) [10]

【IV】 対象児童生徒等の学年

年少 [5]

年中 [41]

年長 [15]

小1 [40]

小2 [59]

小3 [60]

小4 [53]

小5 [37]

小6 [46]

中1 [49]

中2 [46]

中3 [46]

高1 [15]

高2 [19]

高3 [18]

【V】 基礎的現環境の観点

基礎① ネットワークの形成・連携性のある多様な学びの場の活用

基礎② 専門性のある指導体制の確保

基礎③ 個別的教育支援計画や個別の指導計画の作成等による指導

基礎④ 教材の確保

基礎⑤ 施設・設備の整備

基礎⑥ 専門性のある教員、支援員等の人的配慮

基礎⑦ 個に応じた指導や学びの場の設定等による特別な指導

基礎⑧ 交流及び共同学習の推進

全て選択/全て解除

【VI】 合理的配慮の観点

合理①-1-1 学習又は生活上の困難を改善・克服するための配慮

合理①-1-2 学習内容の変更・調整

合理①-2-1 情報・コミュニケーション及び教材の配慮

合理①-2-2 学習機会や体験の確保

合理①-2-3 心理面・健康面の配慮

合理②-1 専門性のある指導体制の整備

合理②-2 幼児児童生徒、教職員、保護者、地域の理解啓発を図るための配慮

合理②-3 災害時等の支援体制の整備

合理③-1 校内環境のバリアフリー化

合理③-2 発達、障害の状況及び特性等に合わせた指導ができる施設・設備の配慮

合理③-3 災害時等への対応に必要な施設・設備の配慮

全て選択/全て解除

1 条件を  
チェック!

2 検索!

3 気になる事例を  
ダウンロード!

ファイル

[H25\\_0054PS1-VIIDS1.pdf](#) [ダウンロード](#) ダウンロード数: 341

【I】 対象児童生徒等の障害種

視覚障害, 知的障害, 言語障害

【III】 対象児童生徒等の在籍状況等

## 合理的配慮の情報が満載! 検討する際の参考に!

合理的配慮が  
具体的に紹介され  
ているよ!



事例をダウンロードして  
使えるよ!

研修方法も詳しくわかるよ!

### ※合理的配慮

障害のある子供が、他の子供と平等に「教育を受ける権利」を享有・行使することを確保するために、学校の設置者や学校が必要かつ適当な変更・調整を行うことです。学校教育を受ける場合に個別に必要なとされるものです。

2024年度

# 日韓特別支援教育協議会

「共生社会の実現に向けた障害理解教育の取組」

## プログラム

- 13:00~13:20 開会 挨拶
- 13:20~13:50 **韓国国立特殊教育院の現状と主な事業の紹介**  
韓国国立特殊教育院  
教育課程政策チーム 教育研究士  
ベク スジン(BAEK SUJIN)
- 13:50~14:30 **韓国における統合教育政策の方向-障害理解教育を中心に-**  
韓国教育部  
特殊教育政策課 教育研究士  
キム ドンギユ(KIM DONGKYU)
- 14:30~14:40 質疑応答
- 14:40~14:50 休憩
- 14:50~15:20 **国立特別支援教育総合研究所の現状と主な事業の紹介**  
国立特別支援教育総合研究所  
総務部長  
小林努(KOBAYASHI TSUTOMU)
- 15:20~16:00 **共生社会の担い手を育む教育に関する研究 - 障害理解教育の検討を中心に -**  
国立特別支援教育総合研究所  
上席総括研究員(兼)インクルーシブ教育システム推進センター長  
久保山茂樹(KUBOYAMA SHIGEKI)
- 16:00~16:10 質疑応答
- 16:10~16:20 休憩
- 16:20~16:50 研究協議

※日本語と韓国語の逐次通訳で実施します。

**2024.07.18 (THU)**

**13:00~16:50**

開催方法 : YouTube Live配信 (後日配信なし)

申込期限 : **2024/06/03~2024/07/10**

申込方法 : 下記URLまたはQRコードよりお申込みください

[https://www.nise.go.jp/nc/about\\_nise/inclusive\\_center/international\\_index/01/kyougikai](https://www.nise.go.jp/nc/about_nise/inclusive_center/international_index/01/kyougikai)



- ・詳細は申込者に後日メールで送付いたします。
- ・YouTube Live配信によるオンラインでの開催となります。

問い合わせ先

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所  
〒239-8585 神奈川県横須賀市野比5-1-1  
Eメール : v-jkc-office@nise.go.jp

独立行政法人  
国立特別支援教育総合研究所  
NISE National Institute of Special Needs Education

교육부  
국립특수교육원